

外国語科（英語）

1 英語科における学習指導の在り方

これからの国際社会に生きる日本人として、世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行っていけるような資質や能力の基礎を養う観点から、英語における実践的コミュニケーション能力を育成することが求められている。

そのため、学習指導要領の外国語（英語）においては、ゆとりある弾力的な言語活動ができるよう、目標のほか、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4領域の言語活動の指導事項も、これまでのように学年ごとに示すのではなく、3学年間を通して一括して示してある。このことから、中学校段階で目指すべき基礎的な実践的コミュニケーション能力の育成のために、各学校が生徒の学習の習熟の程度に応じて、3年間で必要な内容を繰り返して指導するなど、実態に合わせて柔軟に指導をすることが可能となった。

2 英語科における評価規準作成上の留意点

実践的コミュニケーション能力の育成に向けた言語活動が効果的なものとなるようにするためには、どのような教材を使ってどのように指導すればよいかという教材分析に重点を置くことが大切となってくる。

そこで、教材分析をする際には、

それぞれの題材を通して、生徒にどのような力を身に付けさせるか

第1学年から第3学年までを見通した計画性のある言語活動となるか

言語材料についての知識・理解を深めるだけでなく、考えや気持ちを伝える言語活動となるか、等の視点をもつ必要がある。

この教材分析に基づいて、教材との関連を明確にした単元ごとの評価規準を具体化するとともに、年間を見据えた評価・指導計画となるようにすることが重要となってくる。その際、学期・年間等の単位で見たときに、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「表現の能力」「理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」の4観点において、バランスよく評価がなされるように工夫する必要がある。

3 英語科における指導と評価の計画の作成

計画的に行われる指導がより一層効果的なものになるように、評価を生かしていくことが考えられる。そこで、実践的コミュニケーション能力の育成を目指した指導と評価の例を、日米のジェスチャーやことばの使い方の相違から文化の違いに気付かせる教材内容である『NEW HORIZON English Course 3』「Unit 4 An American *Rakugo-ka*」を用いて述べる。

(1) 「単元の目標」作成

1年間を見通した教材分析に基づいて、その単元で育成したい能力を入れ込んだ「単元の目標」

をたてる。ここでは、「話す力」と「読む力」を身に付けさせることを目指した単元の目標例を示す。

【単元の目標例】

落語での扇子の使い方を知り、落語に興味・関心をもたせ、米国人落語家の小咄こばなしを通して、ことばやジェスチャーにおける日米文化の違いを読み取らせる。また、コミュニケーションに困ったときに使う役に立つ表現や手段を理解し、ジェスチャーや言い換えなどを用いた対話活動を行わせることで、実践的コミュニケーション能力の育成につなげていく。

(2) 「単元の評価規準」の作成

単元の目標を4観点から分析し、観点を網羅した「単元の評価規準」を作成する。

【単元の評価規準例】 話すこと・読むこと

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<p>日米のコミュニケーションの図り方の違いを調べるとともに様々な手段を用いて対話しようとする。</p> <p>どのように表現してよいか分からないときにジェスチャー等を用いて伝えようとする。</p>	<p>「疑問詞 + to 不定詞」を含む表現を使って英文を作り、発表することができる。</p> <p>非言語的手段等を用いて、相手に伝えたい内容を表現することができる。</p>	<p>「疑問詞 + to 不定詞」を含む表現を読んだり聞いたりして、その内容を日本語で言うことができる。</p> <p>日米のコミュニケーションの図り方の違いに関する英文を読み取ることができる。</p>	<p>「to 不定詞」を含む表現の意味を知り、それを用いて英文を作ることができる。</p> <p>日本語と英語の意味を1対1で対応させることで生じる問題点について意識することができる。</p>

(3) 「具体的な評価規準」と「指導と評価の計画」の作成

「単元の評価規準」を基に、学習活動における「具体的な評価規準」を作成する。この「具体的な評価規準」を基にして、単元における一体化された「指導と評価の計画」を立てる。評価計画では、教材の内容に応じて重点的に評価する項目を1単位時間に1ないし2定めて、無理がないように評価し、指導に生かすことが重要である。

本文の内容理解や言語材料についての指導は一般的に行われている。この課では、コミュニケーションを行ううえで役に立つ手段であるジェスチャーや言い換えについても扱われている。そこで、英語だけでなくこれらの手段も用いて自分の伝えたいことを表現し、コミュニケーションを図ろうとする態度・能力の育成を目指した活動も指導計画に取り入れて、実践的コミュニケーション能力を育成していくようにしたい。

【指導と評価の計画例】(一部)

時	パート名	主な学習活動	具体的な評価規準 (重点評価項目)				評価方法 評価を指導に生かす手だてと方策
			関心 意欲 態度	表現	理解	知識 ・ 理解	
第1時	Starting Out	<ul style="list-style-type: none"> 本文(パンフレット)の内容を理解する。 「疑問詞+ to 不定詞」を含む表現を読んだり聞いたりして運用に慣れる。 	【関心・意欲・態度】 落語での扇子の使い方を知り、落語について関心をもつ。				挙手 ワークシート : ターゲットセンテンスの構造について再度説明し、文の形に慣れさせ、英文の概要を理解できるようにする。 : ターゲットセンテンスの音読練習をさせて、文の構造について理解を深めさせる。
			【理解】 「疑問詞+ to 不定詞」が用いられている英文を聞いてその内容のあらましを日本語で言える。				
第2時	Dialog	<ul style="list-style-type: none"> 本文(対話文)の内容を理解する 「It is+形容詞+for ~ to」を含む表現を読んだり聞いたりして、運用に慣れる。 	【知識・理解】 「It is+形容詞+for ~ to」の文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。				生徒の応答の観察 ワークシート 自己評価 : 「It is+形容詞+for ~ to」の表現を用いた英文をペアで繰り返し音読させ、この構文に慣れさせる。 : 「It is+形容詞+for ~ to」の表現を用いて、ペアで尋ね合う練習をさせる。その際、会話がスムーズに展開するように、How about you?などのつなぎの表現を使うように心がけさせる。
			<ul style="list-style-type: none"> 日米の文化の相違 【関心・意欲・態度】				

第 3 ・ 4 時	Reading for Communication	の一例として、食堂で注文をするときの違いを理解する。	積極的にジェスチャーを用いて伝えたい内容を表現し、相手に理解してもらうことができる。	発表 自己評価
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 言い方が分からない時などに、ジェスチャーなどを用いて伝達する方法に慣れる。 ・ 「すみません」と I'm sorry. の違いを理解する。 ・ 言い方が分からないときなどに、様々な工夫をして、伝えたい内容を表す。 	【表現】 身振り手振り、顔の表情、単語レベルでの表現等、様々な手段を用いて自分の伝えたい内容を表現し、相手に理解してもらうことができる。	: 適切なジェスチャーを提示し、コミュニケーションを図らせる。 生徒の応答の観察 ワークシート 自己評価 : 表現に使いそうな単語やしぐさを提示し、それらを組み合わせて、伝えたい内容を表すようにする。 : 発展的な課題として、表現方法が分からない場面を設定し、その場面での伝達方法について考えさせる。

重点評価項目中の数字は、【単元の評価規準例】の番号を表す。

4 英語科における評価方法の工夫

(1) 観点別評価と評価方法

評価を適切に行っていくためには、面接や観察などいろいろな方法を組み合わせるなどの工夫をする必要がある。その際には、観点到った評価方法を選択していく。例えば「関心・意欲・態度」や「表現の能力」については、時間的制約等もあるが、生徒との面接によって評価したり、生徒の音読した音声を録音し、それを評価する方法等が考えられる。また、評価する際の規準についてALTと共通理解を図って、共同で評価することもできる。

また、観察による評価も有効で、例えば、「ターゲットセンテンスを用いて積極的に対話を行うことができる」という評価規準であった場合、生徒の発言内容だけでなく、態度や表情も観察するようにしたい。そうすることによって、生徒の理解やつまずきを把握でき、次の指導に何が必要かを判断することができる。

(2) 自己評価カードの活用

自己評価カードを活用する場合には、記号によって記入を求める場合と、文章の記述を求める場合とがある。生徒の実態や学習内容に合わせて使い分けるようにしたい。

自己評価をさせる際には、自己の活動を客観的に評価できる能力を育成するとともに、その結果を次に活かしていくために、どのように改善すべきであるかを考えさせることも必要である。

【自己評価カードの例】

(A : よい B : ややよい C : あと少し D : もっと努力を)

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
項目	積極的に対話したり、英語を理解したりしようと努めたか。	ジェスチャーを使って、相手に言いたいことを伝えられたか。	レストランでの注文の仕方に日米の違いがあることを理解できたか。	レストランでの注文の仕方について、日米の文化の違いを理解できたか。
評価	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D
【本時を終えての感想・意見】				

実践例

1 単元名 第1学年 「同じこと、違うこと」 (Sunshine English Course 1, Program 6)

2 単元の目標

- (1) 本課の概要・要点を理解し、それらについてJTEやALTの質問に答えられるようにする。
(理解の能力)
- (2) 次のような重要文に習熟させ、これらを用いて身近な人や簡単なことについて積極的に表現できるようにする。(表現の能力)
I like oranges. Nancy likes oranges, too.
Does Ken like jogging? Yes, he does. No, he doesn't.
Who is that boy? He is Andy.
- (3) アメリカの日常生活や学校生活などの学習を通して、日本人の生活との違いに目を向けさせる。
(言語や文化についての知識・理解)

3 指導と評価の一体化の工夫

本課の指導に当たっては、教材分析に基づいて、課の目標や重点的に指導する項目を設定して指導計画を立てた。その際、中心的に行う言語活動が評価の場面となるようにし、観点を絞り込んだ評価を行った。ただし、毎時間の評価を同等に扱っていくのではなく、生徒全員が発表する第6時及び課テストを行う第7時の評価に重きを置くようにした。また、学習の過程における評価を計画し、継続して行うことで、評価の信頼性を高め、指導の改善に生かすことができるようにした。

第1時では、この課の目標及び学習の流れを生徒に提示し、この課を学習することによって何ができるようになればよいのか、そのためにどのような学習をすればよいのかを理解させ、見通しをもたせるようにした。また、自己評価カードを用いて、生徒が自ら評価することにより、自分の学習状況や目標への達成状況に気付き、その後の学習が促されるように工夫した。

4 単元の指導と評価の計画

時	ねらい・学習活動	指導の重点				評価規準			評価方法等	
		L	S	R	W	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力		言語や文化についての知識・理解
1	<p>アメリカの地図や学校等の写真を見ながら，生活習慣や学校生活の相違点について気付く。</p> <p>本課の学習目標及び学習計画を理解できる。</p> <p>本課の対話文を聞いて課全体のあらましをとらえることができる。</p> <p>(視点の提示，PCの利用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらまし把握のための新出語句の意味・発音・用法を理解する。 ・重要文(三単現の文)について理解する。 ・質問やTFテストであらましの理解の確認をする。 					<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモを取りながら，関心をもって対話文を聞くことができる。(L) 		<p>(適切な聞き取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話文の内容について大切な部分を聞き取ることができる。(L) 	<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三単現の文や Who ~?の文の意味・用法を理解している。 (文化についての理解) ・日本とアメリカの生活習慣や学校生活の相違点について理解している。 	<p>観察記録 発表(質問・問答) ワークシート 自己評価</p>
2	<p>重要文の意味や構造を理解し，それを使って身近なことについて話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要文(三単現の文)の文法事項を確認する。 ・重要文(Who ~?)について理解する。 ・重要文を用いて表現し，ペアで対話する。 ・前時で扱った以外の新出語句の意味・発音・用法を理解する。 ・本文の内容をより深く読みとる。 					<p>(正確な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三単現の文や Who ~?の文を正しく用いて話すことができる。(S) 		<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三単現の文や Who ~?の文の意味・用法を理解している。 	<p>観察記録 発表 ワークシート 自己評価</p>	
3	<p>Program 6 - 1の要点を把握し，それについての英語の質問に答えることができる。</p> <p>自分が紹介しようとする家族や友人について，三単現の文を用いて，英文を作ることができる。</p>					<p>(正確な音読)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい強勢イントネーション等を用いて音読できる。(R) 	<p>(正確な読みとり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話文の内容について要点を正しく読み取ることができる。(R) 		<p>観察記録 発表 自己評価</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・新出語句の意味・発音・用法を確認する。 ・暗唱を目指して，ペアで対話練習をする。 ・ワークシートを用いて，重要文を使った文の練習をする。 ・Program 6 - 1の内容についての英問英答に答える。 ・家族や友人についての紹介文を作成する。 					<p>(正確な筆記)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三単現の文を正しく用いて書くことができる。(W) 		
4	<p>Program 6 - 2の要点を把握し，それについての英語の質問に答えることができる。</p> <p>つながりや構成を考えながら，家族や友人について紹介する文章を作ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出語句の意味・発音・用法を確認する。 ・暗唱を目指して，ペアで対話練習をする。 ・ワークシートを用いて，重要文を使った文の練習をする。 ・家族や友人についての紹介文を完成する。 					<p>(適切な筆記)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文のつながりや構成を考え文章を書くことができる。(W) 	<p>(正確な読みとり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話文の内容について要点を正しく読みとることができる。(R) 	<p>観察記録 発表 自己評価 ノート</p>
5	<p>Program 6 - 3の要点を把握し，それについての英語の質問に答えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出語句の意味・発音・用法を確認する。 ・暗唱を目指して，ペアで対話練習をする。 ・ワークシートを用いて，重要文を使った文の練習をする。 ・家族や友人についての紹介文を暗唱する。 			<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違いを恐れずに，言語活動に積極的に取り組んでいる。(S) 	<p>(正確な音読)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい強勢，イントネーション，区切りなどを用いて音読できる。(R) 			<p>観察記録 発表 自己評価</p>
6 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・三人称を用いて，自分の家族や友人について紹介することができる。 ・友人の発表をメモを取りながら聞く。 ・紹介文についての教師の質問に答える。 			<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うなずいたりメモを取るなど，相手の話に関心をもっている。(L) 	<p>(適切な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容を整理して自分の家族や友人を紹介することができる。(S) 			<p>観察記録 (チェックリスト) 生徒の応答 自己評価 相互評価</p>
7	課テスト							

5 本時の実際 (6 / 7)

(1) 目標

主語に三人称を用いて，自分の家族や友達について紹介することができる。(S)

友達の発表の質問に答えられるように，ポイントを押さえて聞くことができる。(L)

間違いを恐れず，大きな声で積極的に発表や応答ができる。(S)

(2) 本時の実際

過程	主な学習の流れ	教師の活動	指導上の留意点及び確認事項 (): おおむね満足できる状況 ない生徒への手だて : 重点評価項目
<p>導入</p> <p>(5 分)</p>	<pre> graph TD Start([Start]) --> Greetings[Greetings 1] Greetings --> Warmup[Warm up 2] Warmup --> Aims[Aims of this period 3] </pre>	<p>1 英語であいさつし，簡単な英語の質問をする。</p> <p>2 既習の重要文を用い，英語で質問する。 (Line Game)</p> <p>3 本時の学習目標を提示し確認させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">英語で家族や友達について紹介し合おう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語学習の雰囲気をつくる。 ・ 本課の重要文を正しく用いて，表現できたか。 (ワークシートを見直し，確認させる。) ・ これまでの学習の流れ振り返り本時の学習目標を確認させる。
<p>展開</p> <p>(40 分)</p>	<pre> graph TD Model[Model Presentation 4] --> Students{Students' Presentation 5} Students -- No --> Aux1[Aux.] Students -- Yes --> QnA{Q&A 6} QnA -- No --> Aux2[Aux.] QnA -- Yes --> End[] </pre>	<p>4 モデルの紹介文を発表しその内容について英語で質問する。</p> <p>5 紹介文の発表を援助し，評価をする。 (1) 順番に家族や友達についての紹介文を発表させる。 (2) 友達の発表をメモを取りながら聞かせ，相互評価カードを用い評価させる。</p> <p>6 友達の発表に関して英語または日本語で簡単な質問をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表の態度や方法など留意点を確認させる。 ・ 必要に応じ，発表や英問英答を援助する。 (言語活動への取り組み) ・ うなずいたりメモを取るなど，相手の話に関心をもっている。 (コミュニケーションの継続) ・ ジェスチャーやつなぎ言葉を用いるなど，不自然な沈黙もなく話し続けている。 (生徒がことばにつまった時は，手持ちの生徒原稿を参考にして手助けし，最後まで発表できるように支援する。) ・ 聞く態度は良いか。 ・ 発表の良い点をコメントとして

終 末 (5分)	<pre> graph TD A{Self-evaluation 7} -- No --> B[Aux.] A -- Yes --> C[Comments & Assignments 8] C --> D[Greetings 9] D --> E([Stop]) </pre>	7 今日の学習を振り返り自己評価させる。 8 コメントを聞き，家庭学習の内容を提示する。 9 終わりのあいさつをする。	取り上げ意欲を高める。 ・自分の学習を振り返って，自己評価しているか。 (自己評価カードを回収し，生徒なりの評価を把握しておき，次時の指導に生かす。) ・生徒の良かった点をコメントし，成就感をもたせ，今後の意欲付けとする。

(3) 評価

三人称を用いて，自分の家族や友達について紹介することができたか。(S)

友達の発表の質問に答えられるように，ポイントを押さえて聞くことができたか。(L)

間違いを恐れず，大きな声で積極的に発表や応答ができたか。(S)

(4) 考察

家族や友人を紹介するモデル例を具体的に提示して，どのように英文を作ればよいかに気付かせた。そのため，生徒達は発表時の態度や方法などの到達すべき目標や留意点をはっきりし，授業へ積極的に参加できた。

英語による表現が分からない場合は日本語の使用も認めたので，伝えたいことを発表することの大切さや楽しさに生徒は目を向けることができた。また，生徒が最後まで発表できるように，ことばにつまった時は発表用に描いた絵をヒントにさせたり，手持ちの生徒原稿を参考にしてくっかけの言葉を入れるなどの支援が効果的であった。

6 成果と課題

(1) 成果

効果的な指導と評価

「各時間ごとの中心となる言語活動をどの観点から評価するか」を明確にすることが，授業中の言語活動を再確認することにつながった。例えば，「表現の能力」は，生徒が実際に話したり書いたりする言語活動を行った上で評価しているか。また，「理解の能力」は，生徒が実際に聞いたり読んだりする言語活動を通して評価しているか。その他，「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」は，生徒が実際にコミュニケーションを行う場をきちんと設定して評価しているかなど，自分の指導方法を点検するよい機会となった。

さらに，評価規準表の作成にあたっては，その規準をおおむね満足できる状況と考え，より

具体的なものになるようにした。これにより、各時間の目標が一層明確になり、生徒に対し「何がどれだけでできればよいか。」を具体的に示すことができた。このことは、生徒の意欲を促す意味で非常に良かったと思われる。

自己評価・相互評価の有効性

自己評価カードは、評価項目が言語活動への意欲に関するものや、1単位時間の目標に関するものとなるように具体的に設定するとともに、授業の感想も記述できるようにした。また、授業後にカードを回収して、評価状況を確認することで、生徒が自分の到達度をどのように考えているか、また生徒の評価と教師の評価のずれがどれくらいあるかをとらえることができ、有効であった。

また、自分のつまずきに目を向ける感想や、次の時間へ目を向けた感想などもあり、課の目標達成に向けて有効なものとなった。相互評価カードは、生徒が発表する際に、3つの観点(声の大きさ、目線、流暢さ)から評価するようにしていたため、それらを意識して評価しており、有効であったと考える。

(2) 課題

評価の在り方と生かし方

今回の実践を通して 評価計画を立て生徒の達成度をチェックしながら指導を進めることは、生徒にとっても、見通しを立ててしかも意欲をもって学習するという点で、非常に重要であるということを実感した。しかし、生徒の学習状況を適切にとらえ評価できたかどうかについては不安な面も残った。具体的には、「表現や理解の能力」を評価する際には質問などへの回答率や生徒が書いた文章などを基に行えるのに比べ、言語活動中の「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の評価は不確かな面もあり非常に難しいものであった。この点の解決にあたっては、信頼性を高めるために評価を継続して積み重ねていくことと、評価力を付けることが大切であると考えた。

評価方法の全般的な工夫

自己評価カードや相互評価カードなどを授業や教師の評価にどのように生かしていくかということや補助簿の工夫などは、今後研究し実践を重ねていく必要がある。